

タイトル：2020 年度 教育セミナー（第 16 回）

日時：2019 年 9 月 17 日（木）～20 日（日）

オンライン開催

「イスラーム期における都市ハランの宗教—イブン・アン=ナディームの『目録の書』を中心に」

江原聡子（東京大学大学院）

「中東☆イスラーム教育セミナー」のことは修士課程の頃から存じておりましたが、同課程中は資料調査で精一杯で、なかなか発表という形まで持つて行くことができませんでした。さらに私は東京大学の院進学まで、アッシリア学と考古学という分野におりましたため、イスラーム期の西アジア研究という点ではかなり出遅れており、さまざま悩ましい面を抱えておりました。現在は、アッシリア学の知見を生かした形で、イスラーム期の北シリアの都市ハランのサービア教と同教徒をテーマに研究を進めております。

今回のセミナーは、新型コロナウイルスの影響により zoom によるオンライン開催となり、異例のこととなりましたが、皆さまの有意義な研究発表を拝聴できたことは大変な収穫であったと感謝・感激の思いを新たにしております。中東やイスラームと言っても一枚板ではなく、歴史的宗教的にも時事問題についても多種多様で、自らの専門分野ばかりではなく、学際的な視点も持たなければならぬと強く感じました。講師の先生方や受講生の皆さまには、目から鱗、と申しますか、かなり狭いものであった視野を広げる手助けをしていただきました。何より、オンライン発表の接続や音声等での不慮のトラブルにも揺るがず、研究成果を堂々と述べられ、活発に質疑応答される皆さまのご姿勢に心打たれました。

少し残念に思われましたのはやはり懇親会で、ギャザーで何人かの方々と楽しく情報交換等をさせていただきましたが、交流できました人数に限りがありましたことがやや心残りとなっております。発表以上に懇親会が対面で行われなかった点が画竜点睛を欠くように感じられました。オンラインでも懇親会はもう少し工夫ができるのではないかと思います。ただギャザーを体験したのは初めてでしたので、zoom とは違う面白さを味わえたのは良かったと思います。

私の発表に関しましては、準備不足もあり、やや悔いの残るところではございましたが、司会の先生が見事にお導きくださいましたため、私自身の中でも良く整理してお伝えできたと思います。熊倉先生、本当にありがとうございました。厳しいご指摘もいただきましたが、私の中でしっかりとした糧となりました。講師の先生方、受講生の皆さま、改めて心より感謝申し上げます。